AOZORA NEWS

あおぞらニコニコ通信

2020年 7月号

発行：社会福祉法人三田谷治療教育院
児童発達支援センター 明石市立あおぞら園／児童発達支援事業 明石市立きらきら
〒674-0092 明石市二見町東二見 1836-1 ふれあいプラザあかし西 2 階
TEL.078-945-0280 FAX.078-945-0281 http://sandaya.or.jp/aozoraen/

浅原奈緒子園長のご挨拶

暑い夏がやってきました。今年の夏は、新型コロナの影響でプール遊びがなくなったり、あおぞらフェスティバルもたくさんの人が集まらないように形を変えて行ったりと制限が多くなりますが、できる限りの感染予防対策をとりながら子どもたちが元気に楽しく過ごせるように工夫していきたいと思います。各クラスでは、子どもたちに手洗いなどの習慣がつくことで、清潔なことが心地いいと思う気持ちを育てていけるよう丁寧な指導をすすめています。ご家庭でも、お子様と一緒に手を洗う機会を増やしていただければと思います。

先日、明石高専の学生さんがインタビューにいらっしゃいました。そのとき、「あおぞら園ではどんなことに気をつけて療育されていますか？」という質問がありました。「私たちは、子どもたちがわかるように伝えることを大切にしています。」とお話しさせていただきました。こちらが「伝えた」と思っていても、実際には伝わっていないことは多いと思います。言葉で伝えるのか、やって見せるのか、子どもの手を取ってやってほしいことを伝えるのかを子どもに合わせて考え、伝えた後に子どもがどんな行動をするかを見ることで本当に伝わったかどうかを確かめています。私たちは「子どものことをしっかりと見て、子どもの感じていることや考えていることを受け止める」ことを大切にしています。答えは子どもたちが私たちに教えてくれます。それを受け止めることができるよう、これからも子どもたちと向き合っていきたいと思います。

七夕行事を楽しみました♪

いろいろな行事が中止となる中、少しでも季節を感じられるものができたらと小規模ではありますが、七夕行事を行いました。室内に本物の笹を用意し、七夕飾りを作り、飾りました。きらきらでは本物の笹に少し驚く様子のお子様もおられましたが、親子で飾った後にはじっと眺めるお子様の姿が多く見られました。

今年度は例年通りの療育や行事開催が難しいですが、工夫しながら少しでも季節を感じたり、楽しめる遊びを見つけたりしていきたいと思います。（泉川）

あおぞら園・きらきら就学説明会のご報告

７月１４日、就学を控えているお子様の保護者の方を対象に『就学説明会』を行いました。

明石市教育委員会 学校教育課 特別支援教育係の先生より、通常学級と支援学級の違い、通常学級や支援学級で受けられる支援、明石市内小学校の支援学級数や在籍しているお子様の数など具体的に説明をしていただきました。今年度は初めての取り組みとして、兵庫県立いなみ野特別支援学校の先生にも来ていただき、登校風景や授業の様子などを、写真を交えて分かりやすく説明をしていただきました。詳しく説明をしていただいたことで、お子様の姿を想像しながらどういう進路が自分の子どもに合っているのかを考える機会になったのではないかと感じました。

職員の立場として保護者の方にしっかりと情報を伝えること、お子様の強みなどをしっかりと共有することも感じました。今後も保護者の方がお子様のことを第一に考え、進路など様々なことを選択するお手伝いができればと思います。（大向）

あるお子様の給食での一場面にて

先日、お子様が安心して食事が出来る為の支援を考えたお話です。

そのお子様は口腔内に少し過敏さが見られたので、まずはお子様に合った食具を見つけました。次に、保護者の方と相談して持参した好きな給食を園で食べる事から始めました。

現在は、安心できる職員と楽しく食事をする事を目指して、お子様のペースを重視しながら食べられる食材を増やしています。このような取り組みを続けていると、先日、お子様が園の給食を食べてみようとスプーンに手を伸ばす瞬間に立ち合う事が出来ました！自ら「食べてみたい」と思い、給食を口にした時、お子様の大きな成長を感じ、職員として、とても嬉しい気持ちになりました。

これからも保護者の方にご家庭での様子をお聞きしながら、園とご家庭で楽しく食事が出来る環境作りやお子様に合った進め方を一緒に見つけていきたいと思います。（酒井）

お母様と一緒に考える～送迎時のお子様への支援事例～

先日、お子様が線路沿いのバス停から家へ帰る際に、電車が気になり、スムーズに帰る事ができないとのお話を保護者の方よりお聞きしました。どの保護者様も梅雨時期は大雨の中、夏は厳しい日差しの中、そして冬は寒空の中の送迎はとても大変だと思います。そのような中でバス停までの送迎がスムーズにいかない事は、きっと保護者の方はとても困っていることだろうと感じました。

お母様とお話をする中で、何とかスムーズにお家まで帰る事はできないかと考えた結果、お子様の好きな歌のカードを帰る時のアイテムにしてみようという事になりました。早速使用してみると、すぐに興味を示し、電車や周りを気にすることなく、カードを手にしてお家までたどり着いたとの事でした！このように提案した事が良い結果になった時は本当に嬉しいものです。またお母様と「よかったですね」と喜びを共有できる事も職員として、とても充実したひとときになります。

これからも保護者の方と相談しながら、一つずつ上手くいく方法を考えていきたいと思います。

そして、お子様があおぞら園やご家庭で安心して楽しく過ごせるように支援していきたいと思います。（内山）

お子様の「出来た！」を共有したい～成人施設での経験を生かして～

私は以前、入所の成人施設で生活指導員として勤務させて頂いていました。食事介助や入浴介助など生活全般に関して２４時間利用者様のサポートをさせて頂いたり、一緒に外出をして余暇活動を楽しむなどの支援をさせて頂いていました。

成人の方であっても日々、色々な活動をしていく中で少しずつ出来るようになったこともたくさんありました。しかし「もっと小さい頃から色々なコミュニケーション方法が獲得出来ていれば…」「全て手伝ってもらうのではなく、少しでも自分で出来ることが増えていたら…」もっと生活しやすかっただろうなと思うことが何度もありました。成人施設に勤めたことで、子どものうちに色々な経験を積み、出来る事を増やすことがとても重要だと私は痛感しました。

あおぞら園でお子様の支援に携わるようになった今、お子様の様子をよく見て、丁寧に関わりながら１つでも多く出来ることを増やしていくことが大切だと改めて感じます。

あおぞら園に勤めて３年目になりますが、お子様や保護者さんとたくさんの「出来た」を共有できることが私の１番の喜びです。これからも１つ１つお子様の出来るようになったことを一緒に喜び合えるように日々、取り組んでいきたいと思います。また、成人施設での経験を活かして、お子様の将来を見据えながら保護者さんと共に成長を見守っていければと思っています。（片山）